

PD・PS資料を踏まえた 各事業における主な論点(事務局案)

<NBRP>

- ・ライフサイエンス研究の新たな展開・潮流を先取りする新たなバイオリソースを発掘・支援する必要があるのではないか。
- ・ライフサイエンス研究の新たな展開・潮流に対応するため、事業として我が国のリソースを網羅的に把握し、バイオリソース事業の特性を考慮しつつ、必要に応じて支援の濃淡を変えられる仕組みを検討するべきではないか。
- ・AI for Scienceの潮流の中でバイオリソース事業はどうあるべきか。またバイオリソース事業を通じて生成されたデータをどう取り扱うべきか。
- ・NBRPに参画する機関・研究者・技術者の確保は大きな懸念点であり、機関・研究者・技術者がNBRPに魅力を感じて参画できるような手立てを講じるべきではないか。
- ・日本の多様な自然環境に適応して定着してきた生物種の情報は進化・適応の変遷を読み解く上で研究者・AIにとっても重要な鍵であることから、学術研究での利活用に向けて戦略性を持って収集・保存する必要があるのではないか。
- ・持続可能な事業展開をどう考えるか。

等

<NLDP>

- ・AI for Scienceの潮流の中でライフサイエンス研究データはどう集積されるべきか。AIの基盤とするためには保存データの標準化が必要ではないか。
- ・欧米に伍するライフサイエンス研究データ基盤として、データベースの在り方、統合解析技術開発の方向性をどう定め、事業を展開するか。
- ・これまで主要なデータベースを分立させ、それらを統合的に扱うためのツールを開発して普及してきたが、これからの事業展開をどう考えるか。
- ・ライフサイエンス研究者が情報科学の専門知識を持たなくともデータ駆動型研究を展開できるようにするにはどのような事業展開が必要か。
- ・ナショナルセンターとしての持続可能な事業展開をどう考えるか。

等

<BINDS>

- ・BINDSの役割・存在意義を再定義する必要があるのではないか。
- ・BINDSで取得したデータの戦略的活用及びデータ駆動型研究への対応をするべきではないか(データの集約・二次利用の促進)
- ・事業としての持続可能性をどう確保するか。特に汎用機器の更新・保守体制や費用負担の在り方を整理する必要があるのではないか。
- ・高度な研究機器は、機能を最大限に使いこなせる技術者とセットで運用される必要があり、技術者の人材育成方策をどう考えるか。

等